

彼方 【かなた】

校長通信
H24.12.4
Vol.33



【感動の歌声】

「一学期より感動する歌声を響かせよう！」と投げかけ、各学級で一斉懸命取り組んできました。特に三年生の歌声が廊下を渡って、校長室まで聞こえてくるようになり、当日がとても楽しみでした。帰りの会での練習も見てきましたが、各学級で問題を抱え、それを改善しながら取り組んでいる姿に感激しました。歌が嫌いな生徒もみんなと心を合わせながら毎日一生懸命取り組んでいました。合唱コンクール当日は、そんな学級の営みがそのまま表現されます。

開会式では、卒業生の言葉を借りて、「賞にこだわるよりも 気持ち伝えることをまず考えて楽しく歌う」「他と比べるよりも まずは 自分達と比べて満足できる歌が歌えたか 気持ちを伝えられたか」ということを意識して先輩達が取り組んでいたことを紹介しました。「ひとつの事を一生懸命がんばれるということ、他のこともがんばれる力があるという事だと思えます。」こういう事を真顔で言える先輩が、後輩達に代々伝えてきているところに、本校の



歌声活動の素晴らしさにつながっているのだと思います。

結果は、HPの「学校からのお知らせ」のコーナーにアップされていますが、気持ちを伝えられたかという観点で振り返ってみると、確かに三年五組の「虹」は群を抜いていました。歌で表現することが苦手な生徒の一人や二人は必ずいるものですが、

心をひとつにし、みんなで表現していただくのです。一学期の発表も素晴らしいものでしたが、今回は、さらに表現の難しい曲を選んだにもかかわらず、見事に歌いきっていました。三年生は、五組だけでなく他の学級も実に心地よい歌声を響かせてくれました。それは、開会式で話した各学級の歌声に対するメッセージや思い、取り組みが、聴く人の心にストレートに伝わってきたからです。

「歌声はみんなで取り組むもの」という当たり前のことですが、実はとても難しいことというメッセージを三年生がみごとに表現して見せてくれたのです。最高学年として後輩達に残してくれた大きなプレゼントです。「ありがとう！三年生！」

二年生は、苦しみながら歌声に取り組んでくれました。歌声をすることより、学級の「絆」をどう作ることが大きな課題になっていました。歌声活動だけでなく、「みんなでひとつのことに取り組もう！」ということが思うようにならずにいました。それでも何

とか歌声活動を通して頑張ろうとする気持ちも大きくなってきました。涙を流して訴える姿も見られました。音取りの時間が十分に取れないままの本番。何が課題なのか、はつきりと見えた行事となりました。逆にこれからどう変わっていくのかがとても楽しみでもあります。彼らの持つ可能性に期待したいと思います。「頼むぞ！二年生！」

そんな先輩の取り組みを真剣な表情で見つめていたのが、会場最前列で聴いていた一年生です。二年生の課題や三年生の完成度の高さを肌で感じながら湖北中の一員として次の「感動の歌声」を表現してくれると思います。講師の先生方も「レベルの高い一年生の発表でした。」とおっしゃってくださいました。「とても楽しみな学年ですね。」とも。「頑張れ！一年生！」

コンクール後の日々の取り組みこそが大切になるということを歌声委員長も話していました。今度は、三年生を送る会や卒業式での歌声を全校で作りに上げていこう！

「ひとりひとりがみんなのためにつながっていくことの大切さ」体感できた行事となりました！

